

# 「関わる人を増やす」

獣が い 先にある村の姿考える  
フォーラム

「第5回獣がいフォーラム」(同実行委員会主催)が5日、丹波ささやま農協農業広域研修センターで行われた。会場には約100人が参加。獣害対策に関わる大学や企業、団体、高校生らがそれぞれの取り組みを紹介した。「獣害対策は目的ではなく手段。獣害を減らした先の村をどうしたいのかを考えることが重要だ」と述べる登壇者もあり、さまざまな形で地域と関わってもらう「関係人口」を巻き込むこと

で、これからの展開が広がる可能性を示唆した。

神戸大学の

さんが進行。獣害対策を研究している兵庫県立大学の

さん、丹波

篠山市川阪と関わりながら食育講座などを展開する

さん(西宮

市)やシカ柵点検、川の草刈りなどに協力している

さんの食事支援と獣害対

さん、放置柿で加

工品作りに取り組む篠山

東雲高校2年の

さん、NPO法人・里地

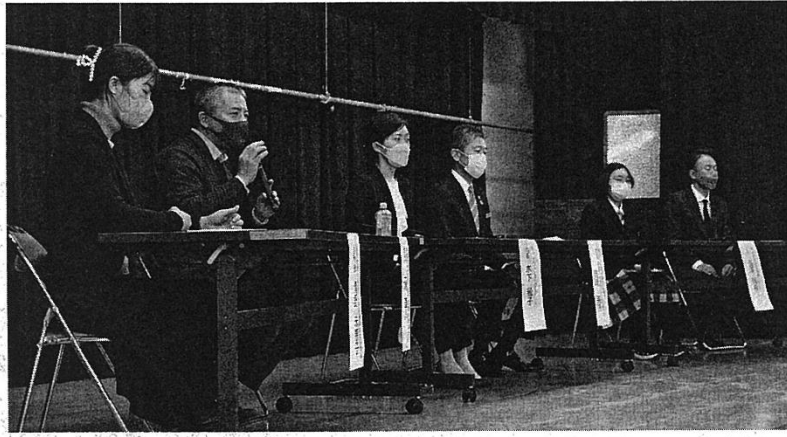
里山問題研究所の

さんが登壇した。

それぞれに「獣害に強い集落は、皆で課題を共有し、体制作りをしてい

る。他の問題解決にもつ

ながる」「都市部のお母さんの食事支援と獣害対



それぞれの立場から獣害対策への展望を語る登壇者たち  
=丹波篠山市大沢で

策がうまく連携できる仕組みがでないか」「会社として人材育成の場にもなっている。情報発信のお手伝いはできる」

「地域農業を守るために、農業高校として協力していきたい」「人口減少による担い手不足の中、獣害対策を草刈りや祭礼、福祉などの問題と同等に捉え直す。獣害をきっかけに同時に解決できる問題もある。キーワードは

「関係人口」。関係する団体の活動テーマとつなぐかみ合えば、互いにこつて良い取り組みになる」などと展望を語った。

また、獣害防止柵の点検などの作業に参加するほかにも農作物を消費したり、広めたりすることでも農村を支えられることや、地域と関係人口をつなぐ役割をする人材が不可欠との課題も示された。

会場参加者のほかに、ユーチューブでの視聴に約150人が申し込んだ。

2023年2月19日

丹波新聞